



「もの創り」の時代

バブル崩壊の後遺症，巨額な財政赤字，グローバル市場経済の進展によって，経済は不安定な状況が続いています。工業系の新聞には，国際市場を対象とする製造企業は，生産規模の縮小，生産拠点の海外移行，さらには異種業種への展開の記事が連日のように掲載されています。

所得格差が少なく，富める国に発展してきたわが国では，高コスト経済のために，国際的な市場原理にさらされる工業製品の生産は困難な時代とされています。国際競争に耐えていくためには，自前の技術の創出，新製品の開発が不可欠になっています。政府は，わが国が先進工業国として現在の地位を維持するために，科学技術創造立国を目指した各種の政策を打ち出しています。それによって製造業の支援となる知的資産，生産技術が創生されることが大いに期待されています。

一方，高度情報化革新は，科学技術の伝達を加速して，先進技術や生産方式の優位性を長く保つことを困難にしています。例えば，高度技術を集めて生産されてきたDRAMなどの半導体メモリー，液晶表示デバイスの生産が韓国，台湾に移行しているように，昨日のハイテク産業も，今日は単なる加工組立産業となって国際競争力を失っていく時代です。わが国で生産できる工業品は，高コストをカバーできる付加価値の高い「ハイテク製品」であり，しかも「鮮度の高いもの」に限られます。高コスト経済が続く以上，それはわが国の宿命と言えます。

先進工業国間の競争に耐え，新興工業国に対して優位性を維持し続けるには，付加価値の高い「ハイテク製品」を開発し続けることが必要です。それには，当然のことながら，新しい知的資産を創り出す

研究者，それを付加価値の高い「もの」として創り出す技能・技術者の確保がなによりも重要であります。人材育成機関に所属する者として，その責務の重要さを強く意識します。

技能・技術者自身にとっても，一つの技能・技術で選んだ職場で一生を過ごすことができない時代です。したがって，産業の高度化の進展に対応していくためには，従来にも増して，革新的な考え，変化を求める意思，創造への熱意が必要になっています。それは「ものづくり」ができる人材の育成において，専門分野の設計・製造等におけるスキルを習得する中で，時代に対応した「もの」を創造できる能力，すなわち洞察力，着想力，論理能力を総合した創造力を付加することが一層重要になっていると考えます。問題を見だし，分析し，解決し，高付加価値の製品を創り出すスキルを持つことが技能・技術者にとって不可欠と考えます。

創造力は多分に資質に依存すると言われていいます。しかし創造は人間にとって喜びであって，誰しもが固有する感性です。創造の楽しさの体験が創造力の養成に寄与すると考えると，人材育成機関における「ものづくり」の技能実習は，創造力を養う機会に恵まれています。その機会を有効に利用したいものです。

これからの技能・技術者に課せられた「ものづくり」は「もの創り」であると思います。

ほんま もとふみ

略歴 昭和34年3月 東北大学工学部(金属工学科)卒業
昭和55年4月 東北大学教授(工学部)
平成9年4月 東北大学大学院教授(工学研究科)
平成12年4月 現職